

## 実習生や若手保育者の困難場面における保育方法についての一考察

加藤 由美<sup>1)</sup>\*

1) 新見公立短期大学幼児教育学科

(2017年11月15日受理)

保育者養成短期大学2年生56名を対象とした「人間関係」指導法の授業において、実習生の困難場面における保育方法について具体的な事例をもとにグループワークを実施した。学生の記述内容をもとに、実習生の困難場面における保育方法の特徴や若手保育者の場合との共通点を明らかにするとともに、子どもへの具体的な対応方法を考える上で、実習生や若手保育者がどのような点に配慮すべきかを考察した。実習生や若手保育者は、特に低年齢児に対する保育方法に困難さを感じており、具体的な事例について話し合うこと(グループワーク)の有用性が示唆された。また、保育方法を考える上で子ども理解の重要性について学生が認識できていることは窺えたが、子ども主体の保育を実践することの難しさは実習生や若手保育者に共通していると推察された。

(キーワード) 保育方法、実習生、若手保育者、困難、保育者養成

### 1. はじめに

保育者養成校における初めての实習において、実習生が子どもに対してどのように接すればよいのかと戸惑う場面は少なくない。時には保育方法に関する困難場面に直面することもある。それは、保育経験の少ない若手保育者の場合も同様である。加藤・安藤(2015・2016)は、保育者(保育士及び幼稚園教諭)の人間関係における困難感に着目し、現場の保育者の具体的な困難事例について報告している。その中で、若手保育者の子どもへの対応において、以下のような保育方法の困難事例を挙げている。

「子どもが3歳未満児で話をしても通じないこと」、「0歳児が泣いている時に何を訴えているのか分からない」、「トイレに一人で行けない。ズボン、オムツを履くのを嫌がる」、「自分のことでいっぱいばいばいで、子ども一人ひとりのことを十分に見れていないのではないかと情けなく思う」、「子どもに悪いこと危ないことは教えていかなければならないが、何もかも『ダメ』『危ない』とやってしまうと、その子どもの可能性を潰してしまうので、どの程度まで許して良いのか難しい」(いずれも保育経験年数3年未満の若手保育者である)。このような保育方法の困難場面には、実習生も直面することが想定され、実際にどのように対応すればよいのかと思悩む場合も少なくないと考えられる。

そこで、本稿では、実習生の困難場面における保育方法の特徴や若手保育者の場合との共通点を明らかにするとともに、子どもへの具体的な対応方法を考える上で、実習

生や若手保育者がどのような点に配慮すべきかについて考察する。

### 2. 方法

N保育者養成短期大学の2年生を対象とした「人間関係」指導法(平成29年度2年次前期必修・演習科目・30時間)の第1回授業において、2年生56名に対して、「1年次の保育実習での困難場面における保育方法(子どもへの対応や言葉かけ等)」について、自由記述で回答を求めた。第2回授業では、自由記述の回答をまとめた資料を学生に提示し、個々の事例への対応について自分なりの考えを記述するように促した。事例数が多いため、まず各自が対応法について考え易いものを選び、記述するという形をとった。第3~4回授業ではグループワークと発表を実施した。グループでの話し合いを円滑に進めることができるよう、各研究室のメンバー(おおむね5名程度)でグループを編成した。

各グループで資料の中から一つの事例を選び、それについて各自の意見を出し合ってグループとしての考えをまとめた後、全体に向けて発表するという方法で実施した。その際、事例を記述した学生に対しては、そのエピソードに関する詳細な説明を求めるように促した。各グループの発表時には、発表内容に関して他の学生・グループからの意見・感想を求めるとともに、保育経験のある教員(筆者)からもコメントを行った。最後に、授業についての感想を記述させた。

実習生の困難場面における保育方法についての記述内

\*連絡先: 加藤由美 新見公立短期大学幼児教育学科 718-8585 新見市西方1263-2

容や授業後の学生の感想内容に関しては、KJ法<sup>1) 2)</sup>を用いて質的検討を行った。

### 倫理的配慮

研究対象者には、口頭にて研究の主旨、目的、方法を伝えるとともに、研究協力は自由意志によるものとし、協力しない場合でも不利益を受けることはないこと、成績評価には一切影響しないこと、授業の成果を研究として公表することについて説明を行い、回答を記述した用紙の提出をもって同意を得たものとした。

### 3. 結果

実習生の困難場面における保育方法についての記述内容を、表1に示した。

子どもの年齢に関する記載がある場合は、年齢ごとに分類した。記述内容に関する質的検討を行った結果、困難場面における保育方法として多かったカテゴリーを順に挙げると、子ども同士のトラブルへの対応(33)、子どもの気になる行動への対応(15)、実習生としての対応の難しさ(7)、その他(2)であった。全回答57の内、年齢に関する記載があるものは23で、その内、3歳以下の子どもに関する記載は20であった。

実習生の困難場面に関するエピソードの内容を、表2に示した。また、授業後の学生の感想内容を表3に示した。

学生の感想として多かったカテゴリーを順に挙げると、他の人の意見や考えが参考になった(41)、子どもへの共感・子ども理解の大切さ(29)、自分なりの考え・気付き(10)、次の実習への意欲(6)、個々の事例を理解することの大切さ(5)、その他(4)であった。

### 4. 考察

#### 低年齢児に対する保育方法の困難

実習生は、特に3歳以下の乳幼児への保育方法に関して困難さを感じていたことが窺えた。若手保育者の語りについて質的検討を行った加藤・安藤(2012)は、若手保育者の保育方法の困難として、トイレトレーニング、食事支援、子どもの怪我への対応の他、話を聞かせる、叱る等の場面で、「どうしていいかわからない」と語った若手保育者の事例を挙げている<sup>5)</sup>。その中で、特に年齢の低い乳幼児への対応は、保育、子育て経験がないと困難であり、若手保育者は、子育ての経験がない上に保育技術が未熟であるため、このような保育方法の困難を抱えやすいと考察している。これは、実習生の場合も同様であると推察される。そのため、実習生や若手保育者は、特に3歳以下の乳幼児に対する保育方法に関して具体的なイメージがもてるような学び(研修)の機会をもつとともに、実際に乳幼児に接す

中で実践的な経験を積み重ねていくことが必要であると考えられる。

#### グループワークにおける学び

実習生は、子ども同士のトラブルや子どもの気になる行動への対応に難しさを感じていた。これは現場の保育者にも共通して見られることである。例えば、Q31「保育者が見ていないところでけんかが起きた時」、Q32「先生が子どもの状況を見ていなかった時の対応」やQ34「1歳児で嫌いな物をよけて食べる子どもへの接し方」等(表1)のような事例に関しては、若手に限らず、保育経験のある場合であっても、その対応に困難を感じている保育者がいた。

そのような保育方法の困難さを感じる場面についてグループワークを行う中で、学生達はそれぞれに望ましいと考えられる対応方法を出し合ったり、実習園での経験から「～をすると子どもが～だった」といったエピソードを伝え合ったりしていた。例えば、Q4「1歳児が他の子を叩いた時の対応」(表1)に関しては、「怪我につながるので2人を引き離す」、「叩かれた子を抱きしめて安心感を持てるようにする」、「叩いた子の気持ちを先生が受け止めて代弁する」、「叩いた子には『叩かれたら痛いよね』と、相手の子どもの気持ちに気付くような言葉かけをする」等の意見が出された。また、Q34「1歳児で嫌いな物だけをよけて食べる子どもへの接し方」(表1)に関しては、「好きな物と一緒に食べられるようにする」、「食べてみようという気持ちになるような支援をする」、「保育者が美味しそうに食べる姿を見せる」、「スプーンの手前に好きな物、奥に嫌いな物を乗せて、口の中に入れる」、「スプーンの下に嫌いなものを隠し、上に好きな物しか見えないようにして食べさせる」、「無理に食べさせることはしない」等の意見が出された。

授業後の学生の感想で最も多かったのは、「他の人の意見や考えが参考になった」という内容であった。具体的には、「他の人の意見を聞いて、自分では思いつかなかったことに対し、なるほどなと思うことが沢山あった」、「自分の事例だけでなく、他の人の事例についても考えることで、保育する上での物事の見方、考え方が広がると思った、いろいろな視点から考えることができた」等が見られた(表3)。

若手保育者に対して、保育における具体的な困難場面のもとにグループワーク等を用いた研修を実施した加藤・安藤(2014)は、参加者から「他の人の意見が参考になった」という感想が多く述べられたことを報告している。グループによる話し合いの中で、他の保育者の話を聞くことは、自身の保育に対する考え方を振り返るだけでなく、保育者としての視野を広げたり、保育に対する考えを深めたりすること、つまり保育者効力感の向上にもつながっている<sup>6)</sup>と考えると、保育における具体的な事例について話

表 1 実習生の困難場面における保育方法について (N=56)

カテゴリ	子どもの年齢	質問番号	記述内容	カテゴリ	子どもの年齢	質問番号	記述内容
子ども同士のトラブルへの対応 (33)	1歳児 (8)	Q1	言葉が正確に伝わらない子ども同士のトラブルの対応は？	子どもの気になる行動への対応 (15)	1歳児 (3)	Q34	1歳児で嫌いな物だけをよけて食べる子どもへの接し方
		Q2	0・1歳児で絵本の取り合いが起こってしまった時は？			Q35	1歳児の過度な人見知りに対応するには？
		Q3	1歳児のけんかで一人は泣き、一人はその場から逃げた。2人を呼んで話をしたが、どうすればよかったのか？			Q36	1歳児に抱っこをせがまれた。先生には他の子どもも遊ぶよ言われたが、その子はずっと抱っこを求めてきた。
		Q4	1歳児が他の子を叩いた時、どのように対応するか？		Q37	2歳児でどうして泣いているのか分からない時の対応、その原因が分かった時の対応	
		Q5	1歳児で一人強い子がいて、玩具を全部ひとり占めしていた。先生は、物静かな子の代わりにその子に玩具かして、などと言っていた。強い子ばかり責めてしまうことにならないか？		Q38	2歳児の子どもがいけない事をした時、保育士はどのように接すればよいのか？	
		Q6	1歳児のけんかで一人は泣き、一人はその場から逃げた。2人を呼んで話をしたが、どうすればよかったのか？		Q39	食事場で話ばかりする(食べるや話すを繰り返す)子どもに対して、どのタイミングでご飯を食べよう促せばよかったか？	
		Q7	1歳児が他の子を叩いたりした時、どの程度に注意するか？		Q40	あらかじめダメと言っていたことをあえて行う子どもへの対応	
		Q8	1歳児で一人強い子がいて玩具を全て一人占めしていた。先生は物静かな子の代わりにその子に「～貸して」と言っていた。強い子ばかり責めてしまうことにならないか？		Q41	集団で遊んでいる時に、一人だけ遊びに参加しない子どもにどう声をかけをするか？	
	2歳児 (3)	Q9	2歳児の玩具の取り合いで一人の子が友達になかなか玩具を貸そうとしなかった。友達に貸してと何回も言った。大人が仲介に入っても貸そうとしなかった。どうしたらいいのか？友達に諭してもらえばよいのか？		Q42	子どもの泣いている理由が分からない時の対応	
		Q10	2歳児同士のトラブルにどのように介入するか？		Q43	おもちゃや遊具を「貸して」と言われたら、いつもすぐに貸してしまう子どもへの対応	
		Q11	2歳児でどうして泣いているのか分からない時の対応、その原因が分かった時の対応は？		Q44	年少児に物を譲れない子どもに対する言葉かけ(「お兄ちゃん(お姉ちゃん)だから」という言葉について)	
	3歳児 (4)	Q12	3歳児がレゴをしていた時、ある男児が自分のものにしてしまうトラブルになったが…		Q45	負けず嫌いな子どもが泣いて保育室から飛び出した時、どう声をかければよいのか？	
		Q13	みんなが言うことを聞いてくれないと泣く3歳女児。本人や周囲への対応は？		Q46	親以外人見知りしたり、無口になってしまう、引っ込み思案な子どもへの接し方は？	
		Q14	3歳児クラスでおもちゃの貸し借りのトラブルがあった。実習生の「～したら」の提案に子どもは納得したが、このような対応が適切だったのか？		Q47	不機嫌な顔をして食事をするM児。先生や周囲の子どもから注意を受けていたのだが、どう対応すればよかったのか？	
		Q15	3・4・5歳児女児3人でのいざこざで、4・5歳児は3歳児を遊びに入れない。3歳児が5歳児の悪口を言うが、どのように声をかければよかったか？		Q48	A児はいつもお腹が痛いと訴えていた。先生からは、うそだから放っておいて大丈夫と指導を受けた。その後も毎日ずっと実習生にお腹が痛いと言ってきた。	
	4・5歳児 (3)	Q16	年長児が年少児の気に入らない子に対して、遊びに入れてあげない等ときつきたる。年長児の年少児に対する話し方が命令口調になる。どう対応すればいいか？	実習生としての対応の難しさ (7)	Q49	初対面での子どもとのコミュニケーションの取り方	
		Q17	4歳児が使っているおもちゃを1歳児がとってしまった時の対応は？		Q50	実習生が複数の子どもから遊びに誘われ、子ども同士の喧嘩が始まってしまったら？	
		Q18	5歳児同士でけんかが始まりそうになり、相手の子どもが謝っても、もう一人の子が納得しない状況での対応は？		Q51	実習生にずっと離れない子どもに対し、他児のところへ行く時の声かけや対応は？	
		Q19	パズルを一人占めする子どもへの対応は？		Q52	実習生にくっついてばかりいる子どもにはどのような声かけがよいのか？	
		Q20	Kちゃんはちゃんにいつも泣かされる。IはKが嫌いだという。どうしていいか分からなかったが…		Q53	先生の言うことは聞かぬが、実習生の話しを聞いてくれない時、どのように関わってあげればよいのか？	
		Q21	一対一でけんかをしている時、他の子が割り込んで一人の子を責めた時、どうすればよいのか？	Q54	危ないことを止めさせる方法		
		Q22	友達の作ったブロックで遊びたい子がいるが、作った子は一人で遊びたがっていた場合	Q55	遊びたいのを我慢してもらいたい時		
	Q23	おもちゃの取り合いで泣いて話そうとしない子への対処は？	～その他	Q56	異年齢児の子どもと関わる際の保育士の援助方法は？どのような人間関係が形成されるか？		
	Q24	けんかをして一人が全員から責められている場合の介入は？	Q57	障がいを持っている子どもにはどのような人間関係の指導をすればよいのか？			
	Q25	ある子どもが仲間はずれにされた時は？					
	Q26	ブロック遊びで作ったおもちゃで友達を叩いた時は？					
	Q27	けんかをして泣き続けている子どもへの接し方は？					
	Q28	けんかの時、どのような状況で先生が介入するか？(手が出た時、長引いた時等)保育士が止めに入るのは何歳頃までか？					
	Q29	いつもトラブルの中心にいる子どもに対して、普段からどのようなことに気を付けて保育をすればよいのか？					
	Q30	子ども同士のけんかで相互が納得するような関わり方は？					
	Q31	保育者が見ていないところでけんかが起きた時は？					
	Q32	先生が子どもの状況を見ていなかった時の対応は？					
	Q33	ブロックの取り合いになった時に手を出してしまう子どもがおり、そこからけんかになる。毎回注意をしても同じことの繰り返しでどのように指導すればよいのか？					

( )内は回答数、複数回答

表2 実習生の困難場面に関するエピソードの内容

質問番号	記述内容
Q23	子ども達がおもちゃの取り合いをして泣いていた。仲裁に入った先生は子どもたちに話し合いをするように言った。でも、話そうとする子と泣いて話そうとしない子がいて、その様子を先生はずっと見守っているだけだった。私は途中で他の子を昼寝部屋に連れて行ったのでどうやって話し合いを終えたのかは分からないが、泣いて話そうとしない子がいたらどうすればよいのか？
Q30	外での自由遊びの際に、K児(女児)が私の元に悲しそうにやって来た。「どうしたの?」と聞くと「MちゃんとHちゃんが仲間に入れてくれん」と言う。近くにその2人がいたのでK児と一緒に2人の元へ行き「Kちゃんが〜って言って来たんだけど本当?」と聞くと、2人は黙ってうなずいた。「Kちゃんはこう言われてつらかったんだって。2人もそうやって言われたら嫌じゃない?」と聞くとうなずいてくれた。「じゃあ、Kちゃんも仲間に入れてみんなで仲良く遊んでくれんかな?」と聞くと、2人はうなずいたもののあまり納得はしていない様子だった。私は仲良く遊んで欲しかったため、このような対応をしたが、M児とH児も納得するような対応があったのではないかと考えた
Q32	Y児が先生に「A君がおもちゃをかしてくれない」と言った。A児はおもちゃを使い始めたばかりであったが、先生はその様子を見ていなかったため「A君、Y君がおもちゃをかってって言うてるよ」と言い、A児はしぶしぶY児におもちゃを渡し、A児は納得していない様子だった。先生が見ていなかったのは仕方ないが、このような状況でどのように対応すれば良いのか？
Q47	Mちゃんは、食事の時すぐ不機嫌な顔をしていつも食べていた。その理由は実習中、私は結局分からなかったが、食事の時以外はよく話し活動的だから、何かあるのだろうと思っていた。食事中、そんなMちゃんに対して周りの子も先生も「Mちゃん、そんなむずかしい顔して食べるの〜」、「食べ物がおしくなくなるよ」といつも注意していた。Mちゃんは表情を変えることなく、怒ったような顔をして静かに黙々と食べていた。その度に、Mちゃんにもきつと理由があるし注意されることは嫌だろうと気にかかっていたが何もできなかった。私が「Mちゃん、おいしいね」、「すごい、全部食べたね」と言うと、「うん」とうなずいたが、あの時、どうやってMちゃんや周りの子と関わっていたらよかったのか？
Q48	A児はいつもお腹が痛いと訴えてくる。先生には、うそだからほおっておいて大丈夫、と指導された。遊びでたくさん関わろうと思いい、9日間たくさん関わったが、最後の日まで毎日お腹が痛いと言ってきた。お腹が痛いということで私が一緒にいてくれると思っていたのかなと思う
Q50	「先生、一緒に遊ぼう」と複数の子どもに言われた。最初は「皆と一緒に遊ぼう」と言って遊んでいたが、途中から「先生、砂場に行こう」と一人の女児が言い出し、他の子が「じゃあ私とは〇〇行こう」等とけんかになり始めた。そうしている間に時間となり終わったが、どのように解決すればよかったのか？

表3 授業後の学生の感想内容 (N=53)

カテゴリー	記述内容	回答数
他の人の意見や考え方が参考になった(41)	人によって考え方が違うので参考になる意見が沢山あった。実際の体験から、他の人の意見や考え方を知ることができた	9
	他の人の意見を聞いて、自分では思いつかなかったことに対し、なるほどと思うことが沢山あった。こういう考え方があるのかと発見があった。こうすればよいのかと知ることができた	8
	自分の事例だけでなく、他の人の事例についても考えることで、保育する上での物事の見方、考え方が広がったと思った、いろいろな視点から考えることができた	7
	グループで考えたので、色々な場面の対応方法、声かけや言葉かけが多く考えられた	7
	自分が実習で苦労したことをみんなの意見を聞くことで、こうすればよかったんだと気付けた	4
子どもへの共感・子ども理解の大切さ(29)	いろいろな人の実習園で行っていたこと(オルゴール、タイムキーパー、もぐもぐタイム等)を聞いて良かった	3
	様々な事例があって自分の経験と重なるところも多々とも参考になった	3
	どんな状況でもまずは子どもの気持ちを汲み取ること、寄り添うこと、共感すること、受け止めることが大切だと感じた	10
	先生の都合で保育するのではなくその子の気持ちをまず考える	6
	子どもの声をきちんと聞くこと、その子の立場になって気持ちを考えることが大切なのだと思えた	5
自分なりの考え・気付き(10)	一人ひとりの子どもの個性、特徴をしっかりと理解しておき、その子どもにあった声かけや援助が必要だと感じた	5
	各年齢によって声かけの内容や仲裁の仕方などが異なるのを意識しながら考えることができた	1
	子どもの発達段階や普段の姿を理解することの大切さに改めて気付いた	1
	子どもの気持ちが分からない場合は、尋ねたり推察して「こうだったの?」と言葉にしてみる	1
	他の人の気持ちや物を大切にすることを育てる声かけが大切だと分かった	2
次の実習への意欲(6)	自分だったらこういう風に対応する等の考えが浮かんできたので、1年生の時よりも知識が少し増えたかなと思う	1
	実習という短い期間でどれだけ子どもと信頼関係を築くことができるかが重要だと思った	1
	実習生の言うことを聞かないという時はよくあると思った。表情や口調を変えながら一生懸命気持ちを伝えようとするのが大切	1
	先生の介入の仕方も配慮したり工夫していくことが大切	1
	まだまだ子どもと関わることについて経験不足なので、考える機会も大切だと思った	1
個々の事例を理解することの大切さ(5)	子どもと関わることの難しさをみんな感じているのだと思った	1
	子ども達の人間関係を培う中で保育士は重要な役割を担っていると感じた。異年齢児との関わりやケンカの時など、どこまで保育士が関わっていくべきなのかを考えながら共に過ごしていくことが大切だと感じた	1
	保育者の子どもに対するプラスの言葉かけやマイナスな言葉かけは周囲に対しても影響力があるのだと思った。	1
	解決法をみんなで考えることで実習時に生かすことができると思う	4
	みんな自分よりもたくさんのことを経験していて、これからの実習への注意するポイントや対応方法が学べてよかった	1
その他(4)	良い面を見つけ、その子の良い面を伸ばすことを目標に今度の実習でやっていきたい	1
	対応は子どもの年齢、状況、その子の性格にもよるので、きちんと事例を把握することが必要だと思った	3
	子どもへの対応において、これが正しい、これは間違いということはないけど、こうするほうが良いという対応ができるようになるといいなと思った	2
話し合いの時間、考える時間がもう少し欲しい	3	
こういう時はこういう風にすればよいや気持ちに寄り添う、代弁するなど、子どもを分かろうとすることは実際にやってみただけ、上手いかなかった。その時の雰囲気や子どもの性格によっても違うし、時間をかけて子どもを知っていく中で理解できていくことも多いと思うので、今後しっかり学んでいきたい	1	

( )内は回答数、複数回答

し合いの場をもつことは有効であると推察される。

#### 保育方法を考えるために

久富・梅田(2008)は、保育方法に関して次のように述べている。「保育者は子どもの反応を見ながら保育方法を探っていくが、実際の保育場面では、保育者と子どもの思いが一致しないことも多く、子どもの気持ちを考えず、保育者の思いだけで保育を行っている場合もある。しかし、それでは子ども主体の保育とはいえないため、保育者は子ども理解によって子どもの状況を判断しながら、自分の願いを修正したり考え直したりしながら、保育を実践していくことが必要となる。」

保育方法を考える場合、何が最善の対応であるかをはっきりと決められるようなことは少なく、判断が難しい場合が多い。例えば、「子どもがげんかをした場合の仲裁の仕方」に関しても、これが正解というマニュアルはない。それは、保育の中で起こる様々な場面での対応の仕方は、状況が異なれば変わるものであり、一人ひとり異なる子ども達の変化に富んだ生活には、全く同じ状況が存在しないためである。保育方法を学ぶことは、現実にはこうした「一つひとつ異なる状況性を含んだ現実の中で起こりうる数多くの出来事に対する方法を学ぶ」<sup>7)</sup>ことである。学生の感想の中には、「保育をするにあたって絶対的な答えはなく、その子ども一人ひとりに応じた関わりの大切さを学んだ。また(出来事の)結果のみを見るのではなく、それに至った過程にも目を向け、子どもの気持ちを受け止めることが何よりも必要だと感じた」、「事例をあわせて聞くことで、状況を把握して考えることができた。状況によっては対応の仕方が異なるので、一概に全てこういった対応をすればよいというわけではないことに改めて気付いた」との記述が見られた。保育方法を考える上で、個々の事例を十分に把握することの重要性について認識できた学生がいたことが窺えた。

#### 子ども理解の重要性と難しさ

保育方法を考える上では、子どもの気持ちや思いを理解することが欠かせないが、学生の記述した事例には、保育者が子どもの気持ちに十分寄り添えていないことが窺えるエピソード(表2: Q32、Q47、Q48)もあった。保育の主体は子どもであり、子どもの育ちを援助することが保育者の仕事であることを考えると、子ども理解は重要である。「保育者として適切な援助をするためには、まず子どもが何を必要としているのかを探ることが不可欠であり、子ども理解は援助のための出発点」<sup>7)</sup>とも言える。

しかし、Q23のエピソード(表2)のように、子どもの気持ちを理解したり十分に受け止めたりすることは容易ではない。例えば、Q45「負けず嫌いな子どもが泣いて保育室から飛び出した時の対応」(表1)について学生に問いか

た際、「大丈夫、また今度～すればいいよ」、「もうお部屋に戻ろうね」等と声をかけるといった回答はあったものの、「まず子どもの悔しい気持ちを理解し、受け止める」といった子どもの立場に寄り添った対応方法は聞かれなかった。

「実習生としての対応の難しさ」(表1)に関する事例では、Q50のエピソード(表2)のような事例の他に、「先生の言うことは聞くが、実習生の話を聞いてくれない時、どのように関わっていけば良いか?」、「危ないことを止めさせる方法」、「遊びたいのを我慢してもらいたい時」といった表現に見られるような、実習生側の「～させなければ」・「～させたい」という思いが強く表出している事例があった。実習生と同様に、若手保育者にもこのような傾向は見られ、子どもを集団としてまとめなければならない、あるいは指導しなければならない、という保育者側の意図が強いと考えられる<sup>5)</sup>。

加藤・安藤(2012)は、若手の時期には意識されにくい困難感として、「子どもの育ちが見えない」、「保育者の意図を優先させてしまう」という2点を挙げており、これらは保育者としてある程度経験を重ねてから自分の保育を振り返った時、初めて分かることではないかと推察している。この2点は、「子どもの発達を理解」、「子どもの主体的な活動を大切にする」<sup>8) 9) 10)</sup>といった保育の根幹に関わるような内容であるが(注1)、若手保育者や実習生にとっては難しい課題であり、保育者としての成長、職能発達という視点から考えていくことも必要となる。

Q30のエピソード(表2)や「先生の都合で保育するのではなく、その子の気持ちをまず考える」(表3)といった感想に見られるように、保育を行う上で子どもの気持ちを尊重することの大切さと難しさについて認識している学生がいることが窺えた。具体的には、「子ども達に対応する時、自分達がこうあって欲しいと思う方向に無意識に動かそうとしていたかもしれないと思った。まずは子どもの気持ちに共感できるように対応できたら良いなと思った」、「一つの方向にまとめようと思うのではなく、一人ひとりの気持ちに寄り添って接することが大切」、「保育者が『～させよう』とするのではなく、子どもの気持ちに寄り添い、まずは共感することが大事なのだなと思った。どのエピソードも、保育者のちょっとした気遣いや心配りで良い方向にいていたので、私も普段から子どもの気持ちに寄り添うことを気を付けたい」等と記述されていた。このように、授業後の学生の感想には、子どもへの共感や子ども理解の大切さに関する記述が見られたことから、学生達の多くは、保育方法を考える上で子ども理解の重要性について認識できたと考えられる。

#### 保育者としてのあり方

Q29「いつもトラブルの中心にいる子どもへの対応」(表

1) としては、保育者自身がその子どものネガティブな面にばかり目を向けるのではなく、ポジティブな視点から子どもの良い面を認めていこうとする姿勢が大切であり、その姿が子ども達のモデルとなってクラスの良い雰囲気作りにつながると考えられる。「保育者の子どもに対するプラスの言葉かけやマイナスな言葉かけは周囲に対しても影響力があるのだと思った」、「子ども達の人間関係を培う中で保育士は重要な役割を担っていると感じた」(表3)との学生の感想に見られるように、子ども達のモデルとなるにふさわしい保育者としての倫理観を育むことも重要である。

また、今回の授業においては十分取り上げられなかったが、Q46「親以外人見知りしたり無口になってしまう、引っ込み思案な子どもへの接し方」や、Q57「障がいを持っている子どもへの指導」(表1)については、「場面かん黙」や「発達障がい」等に関する専門的な知識と適切な対応方法についての理解が不可欠となる。そのため学生自身が、「心理学」や「障害児保育」等、他の科目との関連性を認識し、これらの知識が現場の保育と密接に関連しているという必要感をもって学ぶことが求められる。

## 5. おわりに

秋田(2010)は、入園間もない幼児が泣いている場面のDVDを視聴し、保育の研究仲間と語り合った際のことを次のように述べている。「泣くことは不快感情の表出だから生理的には解消したほうがよいと大人は考える。しかし専門家はそこに子どもの自己の育ち、他者との関係、居場所の発達を見通しつつ、実践的推理と判断で見守ったり、かかわったりしている。保育という長期の集団生活の場だからこその見識なのである。これは養成校のテキストではなく職場で学び取られていく。子どもの心の機微の読み取りによって、距離の取り方を判断できるところに、保育者の心もちは見られる。」<sup>11)</sup>

保育方法を考えることは、保育者の子ども理解と直結している。そして、子ども理解とは、保育者が子どもを理解しようと心を砕き、心を寄せることを意味する。そこには、「相手の心、気持ちを踏みにじらないようにしながら、保育者の心をそっと近づける」<sup>12)</sup>というニュアンスがあり、保育者自身の豊かな感性が基盤にあって初めて可能となるものである。

実習生や若手保育者が、子どもの反応や育ち、遊びの内容等から、自身の保育方法が適切だったのかどうかを検討する中では、様々な葛藤があったり、保育に自信をなくし不安になったりすることもあると思われる。しかし、自分の出会った子どもの事例や自身の保育実践を丁寧に読み取り、その時々に必要な保育方法を一つひとつ考えていくことにより、子どもをみる目や子どもと関わる力が養わ

れ、次の保育実践に活かすことができるのではないだろうか。

注1 文部科学省により平成29年に告示された『幼稚園教育要領』第1章総則 第1 幼稚園教育の基本 および内閣府・文部科学省・厚生労働省により同年に告示された『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』第1章総則 第1の1 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本 には、「教師(保育教諭等)は、幼児(園児)の主體的な活動が確保されるよう、幼児(園児)一人一人の行動の理解と予想に基づき～(略)～」と明示されている。また、厚生労働省により同年に告示された『保育所保育指針』第1章総則 1 保育所保育に関する基本原則 (3) 保育の方法 には、ア「～(略)～子どもの主体としての思いや願いを受け止めること。」、ウ「子どもの発達について理解し、一人一人の発達過程に応じて保育すること。～(略)～」、オ「～(略)～子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること。～(略)～」と明示されている。

## 参考文献

- 1) 川喜田二郎：発想法—創造性開発のために—。中公新書。1967/2006。
- 2) 川喜田二郎：続・発想法—KJ法の展開と応用—。中公新書。1970/2002。
- 3) 加藤由美, 安藤美華代：保育士の人間関係における困難感。日本保育学会第68回大会発表要旨集, 84。2015。
- 4) 加藤由美, 安藤美華代：幼稚園教諭の人間関係における困難感。日本保育学会第69回大会発表要旨集, 586。2016。
- 5) 加藤由美, 安藤美華代：新任保育者の抱える困難—語りの質的検討—。兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科教育実践学論集, 14, 27-38, 2012。
- 6) 加藤由美, 安藤美華代：新任保育者のための心理教育—“サクセスフル・セルフ”新任保育者版の試行的実施およびプロセス評価—。日本心理臨床学会第33回大会論文集, 400。2014。
- 7) 久富陽子, 梅田優子：保育方法の実践的理解。萌文書林。2008。
- 8) 文部科学省：幼稚園教育要領。フレーベル館。2017。
- 9) 厚生労働省：保育所保育指針。フレーベル館。2017。
- 10) 内閣府, 文部科学省, 厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領。フレーベル館。2017。
- 11) 秋田喜代美：保育のおもむき。ひかりのくに。2010。